

厚生労働科学研究費補助金（エイズ対策研究事業）  
分担研究報告書  
東京大学医科学研究所附属病院における HIV/HCV の臨床経過

研究分担者 四柳 宏 東京大学医科学研究所先端医療研究センター 教授

研究要旨 2017年に本院を受診した537名の患者の記録からHCV抗体・HCV RNAが陽性であったことのあるMSM患者を抽出した。陽性者21名(3.9%)の内訳は(1)当院通院中に急性肝炎を発症 14名 (2)当院通院開始時に慢性肝炎 1名 (3)HCV抗体陽性で発見(自然治癒例)6名であった。急性肝炎から慢性肝炎への移行は4例(27%)と低率であったが、46歳時に発症したアルコール多飲者が経過観察7年で肝硬変に移行していた。男性間性交渉によりHIVに感染した症例はHCVに感染するリスクが高く、常習飲酒のある例では肝線維化の進展が早いことが伺えた。

共同研究者

菊地正、鯉淵智彦（東京大学医科学研究所附属病院）

A．研究目的

HIV感染者ではHCVに感染した際の肝線維化進展が早く、肝硬変に至るまでの時間がHIV非合併例に比べて短いことが知られている。今回MSM（men who have sex with men）を対象にこの点に関して検討を行った。

B．研究方法

2017年に本院を受診した537名の患者の記録からHCV抗体・HCV RNAが陽性であったことのあるMSM患者を抽出した。

（倫理面への配慮）

本検討に関しては、「HIV感染症に関する臨床ゲノム情報に関する研究」(28-55-0330)として東京大学医科学研究所倫理委員会の認可が降りている。

C．研究結果

対象患者537名中、HCV抗体・HCV RNAが陽性であったことのあるMSM患者は21名であった。その内訳は急性肝炎14例、感染既往（自然治癒）6、初診時慢性肝炎1例であった。

急性肝炎14例のうち、自然治癒したのは1例のみであった。13例の慢性化例のうち、IFNベースの治療で治癒したもの3例、

DAAで治癒したもの3例、DAA投与中2例、現在慢性肝炎で無治療のもの5例であった。

慢性肝炎5例の肝障害発症からの観察年数は1年から13年（中央値6年）であった。もともとアルコール多飲歴のあった1例がHCV感染合併後7年で血小板数が15万から7万まで低下しており、肝硬変に進展していることが推定された（表1）。

D．考察

HIV感染者は麻薬など違法薬物の使用、刺青など体に針を立てる行為、男性間性交渉などによりHCVに感染する。

HIV感染者は新規にHCVに感染することが珍しくない。今回の対象537名中4%弱がHCVに感染しており、一般生活者と比べて高率である。HIV感染者がHCVに感染した場合、精液にHCVが高頻度に検出されることが知られている。こうしたことが高いHCV率につながっていることが推定される。

HCVに感染した場合の進展速度はHIV感染者では速いとされている。その原因としてはHIVにより星細胞が活性化されることなどが言われている。アルコール性肝障害、脂肪肝、薬剤性肝障害などの合併は肝線維化を増悪させることが知られている。

今回の検討では MSM

E . 結論

HIV 感染者 (MSM) の。

F . 健康危険情報

なし

G . 研究発表

1 . 論文発表

1. Ogishi M, Yotsuyanagi H. Prediction of HIV-associated neurocognitive disorder (HAND) from three genetic features of envelope gp120 glycoprotein. *Retrovirology*. 2018 Jan 27;15(1):12. doi: 10.1186/s12977-018-0401-x.
2. Tsutsumi T, Okushin K, Enooku K, Fujinaga H, Moriya K, Yotsuyanagi H, Aizaki H, Suzuki T, Matsuura Y, Koike K. Nonstructural 5A Protein of Hepatitis C Virus Interferes with Toll-Like Receptor Signaling and Suppresses the Interferon Response in Mouse Liver. *PLoS One*. 2017 Jan 20;12(1):e0170461. doi: 10.1371/journal.pone.0170461. eCollection 2017.
3. Ikeda H, Watanabe T, Okuse C, Matsumoto N, Ishii T, Yamada N, Shigefuku R, Hattori N, Matsunaga K, Nakano H, Hiraishi T, Kobayashi M, Yasuda K, Yamamoto H, Yasuda H, Kurosaki M, Izumi N, Yotsuyanagi H, Suzuki M, Itoh F. Impact of resistance-associated variant dominance on treatment in patients with HCV genotype 1b receiving daclatasvir/asunaprevir. *J. Med Virol*. 89, 99-105, 2017.

2 . 学会発表

1. 松澤幸正, 菊地正, 佐藤秀憲, 安達英輔, 古賀道子, 堤武也, 藤野雄次郎, 鯉淵智彦, 四柳宏 CD4 数 200/ $\mu$ L 前後で CMV 網膜炎再燃を繰り返し、前房

水からガンシクロビル耐性 CMV が検出された一例 第 31 回日本エイズ学会 2017 年 11 月 東京都

2. 萩原剛, 四柳宏, 藤井輝久, 遠藤知之, 長尾梓, 三田英治, 横幕能行, 伊藤俊広, 浮田雅人, 渡邊珠代, 四本美保子, 鈴木隆史, 天野景裕, 福武勝幸 HIV 合併を含む血友病患者における C 型慢性肝炎の DAA 治療において保険適用外となる HCV ジェノタイプに対する治療の試み 第 31 回日本エイズ学会 2017 年 11 月 東京都
3. 佐藤秀憲, 安達英輔, 菊地正, 古賀道子, 鯉淵智彦, 堤武也, 四柳宏 HIV 感染者における C 型急性肝炎の検討 第 31 回日本エイズ学会 2017 年 11 月 東京都
4. 安達英輔, 佐藤秀憲, 菊地正, 古賀道子, 鯉淵智彦, 四柳宏 DRV/RTV から DRV/COBI へのプースター変更症例における臨床所見の変化 第 31 回日本エイズ学会 2017 年 11 月 東京都
5. 菊地正, 佐藤秀憲, 安達英輔, 古賀道子, 堤武也, 鯉淵智彦, 四柳宏 HIV 感染者における高尿酸血症の有病率と関連する因子 第 31 回日本エイズ学会 2017 年 11 月 東京都

H . 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む。)

- 1 . 特許取得  
特になし
- 2 . 実用新案登録  
特になし
- 3 . その他  
特になし